子宮頸がん・子宮体がん・卵巣がん

1. 診断

（1）精密検査（確定診断）

内診、直腸診、細胞診、組織診、コルポスコープ診*、超音波（エコー）検査、子宮鏡検査、腫瘍マーカー検査、CT検査、MRI検査、膀胱鏡、直腸鏡、尿路検査などが行われます。

各診療所と徳洲会病院では困難ですが、八重山病院で可能です。また、本島のがん診療連携拠点病院（➔P41）や専門的がん診療機関（➔P44・子宮がん）でも可能です。

（2）病期判定

治療の方針を決めるために、病期（ステージ／ stage＝病気の広がり、がんの進行の程度）を決定することが必要です。

各診療所と徳洲会病院では困難ですが、八重山病院で可能です。

＊コルポスコープ診

コルポスコープという拡大鏡で、子宮頸部の粘膜表面を拡大して、細かい部分を観察し診断します。通常、組織を採取する際には、コルポスコープの観察で異常が疑われる部位に、狙いを定めて採取します。

2. 治療　※詳細は担当医にお聞きください。

（1）手術

もし手術が可能な病期であれば、多くの場合、まずは手術をします。

各診療所と徳洲会病院では困難ですが、八重山病院で可能です。

（2）放射線療法（がんに治療用の放射線を当てて、がん細胞を破壊して、がんを消滅させたり小さくする治療）

病期や病状によっては、放射線治療が必要になることがあります。化学療法と併用されることもあり、その場合は化学放射線療法と呼ばれます。

八重山医療圏（竹富町、与那国町、石垣市）では困難なので、本島の放射線療法が可能な病院で治療を受けることになります（➔P45）。

（3）化学療法（抗がん剤、分子標的治療薬など）

手術が成功しても、手術後に化学療法が必要なことがあります（術後補助化学療法）。また病期によっては、最初から化学療法を行う場合があります。

各診療所と徳洲会病院では困難ですが、八重山病院で可能です。

（4）内分泌（ホルモン）療法（がん細胞の増殖にかかわる体内のホルモンを調節して、がん細胞が増えるのを抑える治療法）

子宮体がんの場合は、病型や病状によっては、内分泌療法を行うことがあります。

各診療所でも、内分泌療法が可能な場合があります。内分泌療法が可能かどうかは、各診療所へ問い合わせてください。その場合は、主治療を行った病院と連携しながら、治療を行っていきます。

いずれの内分泌療法も、八重山病院または徳洲会病院で可能です。

